

平成23年度大学職員情報化研究講習会

～基礎講習コース～

グループ討議

グループ名：D班－4グループ

タイトル：一生付き合える大学を創る理想の職員とは

課題認識

まず、課題認識をするため、各大学各セクションに配置されたメンバーから、それぞれの部署間での問題点、課題の洗い出しを行うことにした。KJ法を用いて、種々持ち上がった個別の問題点をグループ化した結果、『情報の共有化ができていない』、『ルーチンワークが多く手段が目的化している』という2つが共通の課題として抽出された。この問題の起源を討議により探った結果、大学のビジョンがあいまいであることが要因ではないかとの意見で一致した。さらに言えばこのことは、建学の精神、また建学の精神を源泉とする教育目標がありながら、教育研究活動や学生サービス、学生支援等、実際の業務の指針となるまで根付いていないことが根底にあると置き換えることができる。

そもそも、大学が社会から負託された社会的機能とはなにか。それは、知の集積であり、集積された知をもって、社会にとって有益な人材を育成し社会へ輩出すること、また、知の体系化によって地域やその経済に寄与することである。しかしながら、現在多くの大学は急速に変わっていく社会情勢への対応に追われ、目先の課題、例えば、18歳人口の減少に伴う学生獲得合戦に躍起となり、本来あるべき大学の機能を失いつつある。社会から負託された大学が果たすべき社会的機能を取り戻すため必要なものはなにか、私たちのグループでは、大学を構成するソフトたる、大学職員のあるべき姿に着目し、あるべき大学創りを考えることにした。

討議内容

大学職員にとってあるべき姿とはなにか。社会から負託されたあるべき大学の機能を体現するため、われわれはどのような気概を持ち、どのような資質を身につけ、身につけたスキルを具体的にどう行動に移すか。大学職員の理想像の輪郭を純粹に導き出すために、ブレインストーミングを用いて、できるだけ多くの要素を書き出した。

書き出された要素をグループ化していく段階で、私たちは導き出すべき帰着点が、大学職員としてではなく、社会人一般のあるべき姿としてしか向かっていないというジレンマに直面した。理想の大学職員によるPDCAサイクルの在りようを探ってきた本グループは、重大で根幹的なある要素を見落としていたのだ。それは、負託された大学の責任を果

たすべき『対象』（以下、ステークホルダーという。）であった。

そこで私たちは大学におけるステークホルダーとは誰（何）なのかを改めて討議することにした。討議の結果、1. 在學生、2. 潜在入學者、3. 前者の保護者、4. 社会①（企業）、社会②（地域）、5. 同窓生、がそれにあたることを確認し、それぞれの対象が、大学に何を求め、大学はその要求に対し何を提供することで、その責務を果たせるのかを導くことで、設定した課題の解決に向かうことにした。各対象へ果たすべき具体的な責務については、別紙プレゼン資料のとおりである。

果たすべき対象に果たすべき責務や機能を果たす、あるべき大学とは言い換えれば、理想の大学である。理想の大学は、求める知的欲求その他機能を満たされたステークホルダーとの間に、有益のシナジーを生み出す。潜在的入學生は、将来の可能性を大学に託すことができ、在學生は在学期間中、将来の自己実現のための有益な教育サービスを受用する。保護者は、安くない学費を納入した対価として安心して子息を預けることができ、社会は、社会人基礎力をはじめとした人間力を備えた人材を得ることで、高等教育の存在価値を改めて見出し、その高等教育機関から更なる人材を求めることができる。さらに、この人材の循環は地域や経済の活性化を促す。そして、大学にとって最大の成果物とも言うべき、卒業生（同窓生）は、自らをもって、大学の価値を体現する最も影響力のある代弁者である。理想の大学から輩出された彼らは、大学で得た知識や経験を実社会で能動的に生かすだろう。卒業生は自らの軌跡を誇りに思い、大学の永続的なサポーターとなりえる。この考察によって、理想の大学とは、こうした持続した発展サイクルを体現する大学であるということに帰結していった。

提案内容

課題認識によって、大学職員のあるべき姿を求め、あるべき大学とは何かについての討議を進めることによって、理想の職員像とは、大学を取り巻くステークホルダーに対し果たすべき役割の上に成りつのだという確信を得た。

この討議を締めるにあたり、私たちのグループは、理想の大学を創造していく者として、今後の行動指針に一つの標語を掲げ、私たちを含むすべての大学職員に問いかける。

——生付き合える大学を創る。——

期待に胸を躍らせて入学する新入生、可能性を広げるため試行錯誤する在學生、然るべき知や経験を獲得し、社会へ羽ばたいていく卒業生。それらを期待の眼差しで見守る保護者、地域社会。大学の理想モデルは、すべてのステークホルダーへの愛（情熱）とその重要な任務に関わることができるプライドを携えた、大学職員ひとりひとりのPDCAのサイクルが実現させるのではないだろうか。